

ふなかわら

第29号

2017年6月15日発行
編集・発行 石井甲一
〒278-8510
千葉県野田市山崎2641
東京理科大学薬学部内
印刷・菅原印刷㈱



重要なお知らせ：WEB会員管理システムについてご確認ください。

CONTENTS

1. WEB会員管理システムについて	2	第21期同期会報告	23
2. 薬学部同窓会創立30年目を迎えて (石井 甲一)	7	第9期同期会報告	23
3. ご挨拶 (銀冶 利幸)	8	第12期同期会報告	24
4. 新任の挨拶 (鈴木 立紀)	9	古希を記念した第6期同期会報告	24
(西川 元也)	9	第14期同期会報告	25
5. 平成29年度同窓会通常総会および講演会のご案内	10	第16期同期会報告	26
6. 東京理科大学薬学部 第22期 同期会のご案内	10	第5期同期会開催	27
7. 平成28年度同窓会通常総会のご報告	11	放射関係研究室同窓会報告	27
8. 平成28年度同窓会講演会のご報告	12	13. 同窓会事務局からのお知らせ	28
9. 薬学講座のご案内	14	幹事会はどなたでも参加できます	28
10. トピック	16	薬学部同窓会は同窓生の真心と会費で運営されています	28
研究室紹介 青山 (薬物治療学) 研究室 (青山 隆夫)	16	14. 氏名・住所・異動等変更届	29
恩師からのたより (久保田 和彦)	18	15. 会費・寄付納入者一覧	31
11. 卒業生報告	20	16. 終身会員一覧	31
近況報告 (昌子 久仁子)	20	17. 訃報	35
12. 同窓会だより	21	18. 東京理科大学薬学部同窓会へのお問い合わせ	36
平成29年度地区交流会のご案内	21	19. 編集後記	36
平成28年度地区交流会報告	22	20. 同窓会幹事一覧	36
第15期同期会報告	22		

重要なお知らせ

WEB会員管理システムについて

東京理科大学薬学部同窓会では、5年ごとに同窓会名簿を発行して参りました。しかし、冊子版（2000年度版以前）は製作および保管廃棄にも経費が嵩むため、CD-ROM版（2005、2010年度版）を採用いたしました。が、短期間でパソコンのOSが更新していくため、数年で使用することができないことが判明しました。

そこで、同窓会幹事会におきまして、今後の名簿について審議した結果、WEB会員管理システムを採用することになりました。このシステムは、同窓会事務局が行っている会員管理機能と名簿機能の両者を併せ持つシステムです。会員個人がインターネット上で登録情報を更新し、その個人情報公開の可否を項目毎に選択することができるため、会員の情報開示の意志に沿ったシステムとなります。システムの構築時に若干の費用が掛かりますが、半永久的に使用することができ、その後の経費もサーバー管理料と保守管理料程度で済みます。

このふなかわら29号に、WEB会員管理システムを利用するときに必要な会員コードと仮パスワードを同封しております。なるべく早めにこのシステムにログインしていただき、パスワードの変更、登録情報の確認、情報公開の可否を登録していただけますと幸いです。

今後、同窓会からのお知らせ等は登録いただいたメールアドレスに配信する予定ですので、メールアドレスをお持ちの方は必ずご記入下さい。もしお持ちでない方は連絡がとれるご家族等のアドレスでも結構です。WEBシステムの詳しい利用方法については以下をご覧ください。

名簿システムのご利用方法

- ① 理科大薬学部同窓会のホームページ（<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/index.html>）を開きます。YahooやGoogleなどで「理科大薬学部同窓会」と入力して検索すると見つかります。または、URL欄に、<https://ridaiyakudo.sakura.ne.jp/kaikin/login.php>を入力すると、下のようなトップ画面が表示されます。そこに会員コード、パスワードを入力し、ログインをクリックしてください。

東京理科大学薬学部同窓会・名簿システム

【ログイン】

会員コード:

パスワード:

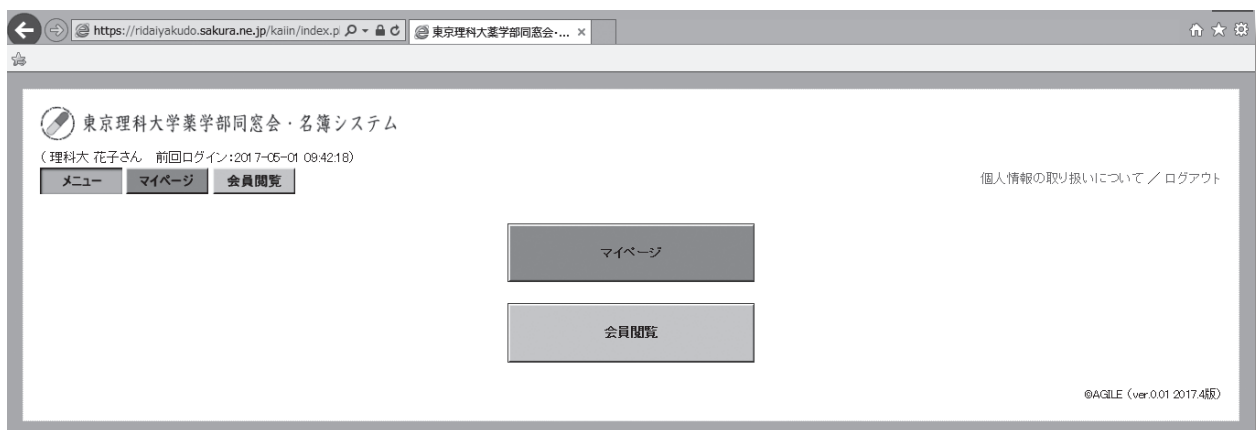
☐ パスワードの伏せ字を表示する

ログイン

・会員コードやパスワードがわからない場合は、同窓会事務局までお問合せください。
同窓会事務局の連絡先は、こちら。

©AGILE (ver.0.01 2017.4版)

- ② ログイン後、下のようなメニュー画面が表示されます。ご自分の登録情報の確認や訂正をしたい場合は「マイページ」を、他の会員の方の情報をご覧になる場合は、「会員閲覧」をクリックします。



*会員閲覧の情報は、各会員が登録の確認を実施するまでは基本情報しか公開されません。

- ③ マイページ画面では、登録情報の確認・訂正や、情報の公開・非公開の選択、パスワードの変更ができます。

- ④ 登録情報の訂正、公開・非公開の選択、パスワードの変更をした後は、必ず画面一番下の「訂正確認」をクリックし、画面の指示に従ってください。事務局で確認後、訂正された情報が本登録されます。

卒業年・学部は、変更できません

会費について、現在の納入状況が表示されます

公開・非公開はここをクリックすると選択できます

訂正後は、ここをクリック

訂正確認 リセット

- ⑤ 会員閲覧画面では、まず検索画面が表示されますので、閲覧したい会員の条件を入力し、「検索」をクリックしてください。

東京理科大学薬学部同窓会・名簿システム

(アジルクテストさん 前回ログイン:2017-05-23 10:38:31)

メニュー マイページ 会員閲覧

個人情報取り扱いについて / ログアウト

■ 会員閲覧 ■

会員抽出条件 (複数の条件を指定するとAND検索になります)

氏名
フリガナ : アジルク (部分一致)
旧姓 : (部分一致)
旧姓フリガナ : (部分一致)

性別 : [v]

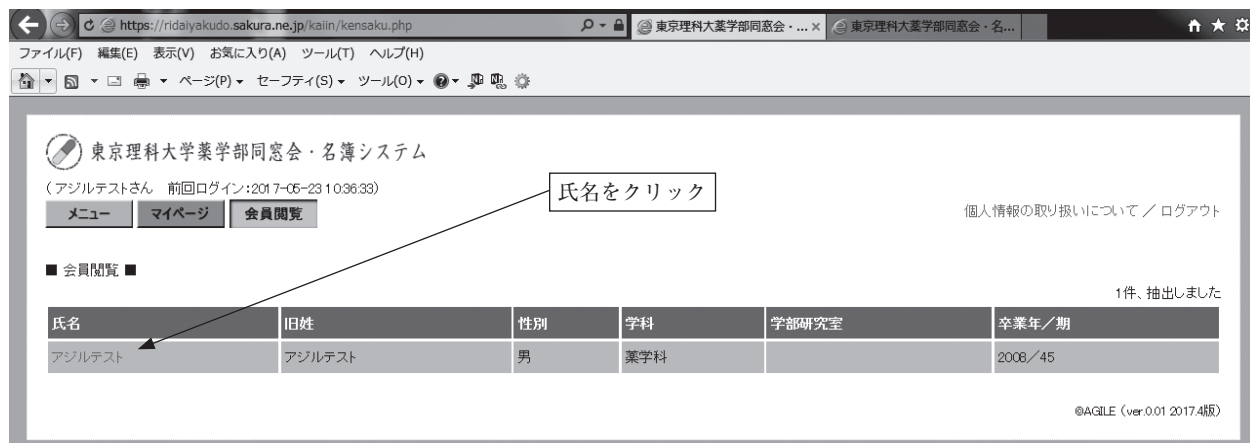
現住所 : (部分一致)

学部
所属学科 : [v]
卒業年/期 : 全卒業年 [v]
所属研究室 : [v]

検索 リセット

©AGILE (ver.0.01 2017.4版)

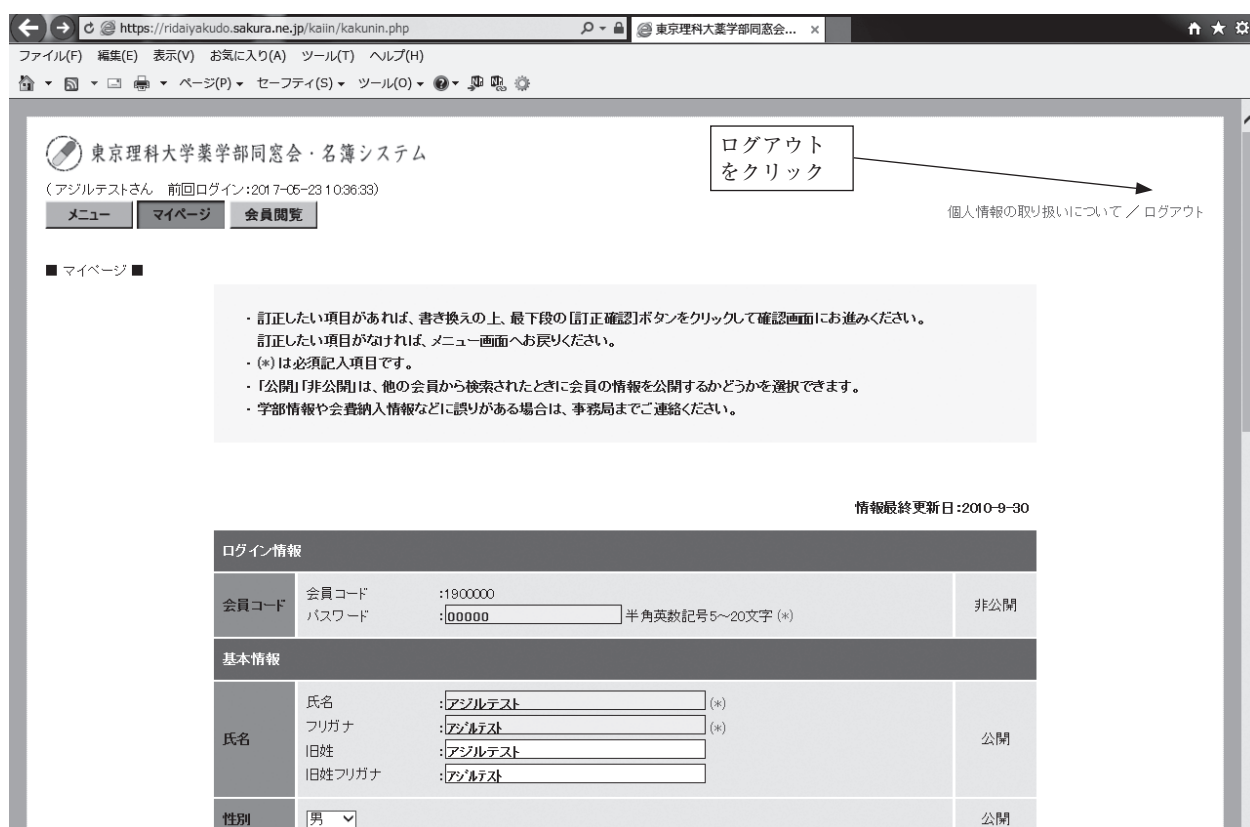
⑥ 検索結果が一覧表示されます。



⑦ 氏名をクリックすると、公開されている情報のみ閲覧することができます。



- ⑧ 終了するときには、ログアウトをしてください。画面右上の「ログアウト」をクリックすると、ログアウトしてトップ画面に戻ります。



東京理科大学薬学部同窓会・名簿システム

(アジルテストさん 前回ログイン:2017-05-23 10:36:33)

メニュー マイページ 会員閲覧

■ マイページ ■

- ・訂正したい項目があれば、書き換えの上、最下段の[訂正確認]ボタンをクリックして確認画面にお進みください。訂正したい項目がなければ、メニュー画面へお戻りください。
- ・(*)は必須記入項目です。
- ・「公開」「非公開」は、他の会員から検索されたときに会員の情報を公開するかどうかを選択できます。
- ・学部情報や会費納入情報などに誤りがある場合は、事務局までご連絡ください。

情報最終更新日:2010-9-30

ログイン情報			
会員コード	会員コード	:1900000	非公開
	パスワード	:000000 半角英数記号5~20文字(*)	
基本情報			
氏名	氏名	:アジルテスト(*)	公開
	フリガナ	:アジルテスト(*)	
	旧姓	:アジルテスト	
	旧姓フリガナ	:アジルテスト	
性別	男		公開



薬学部同窓会創立30年目を迎えて

東京理科大学 薬学部 同窓会会長 石井 甲一



昭和62年（1987年）7月に発足した薬学部同窓会は、本年7月で30歳を迎えます。初代会長は1期生の小原侃さんであり、14年間務められました。2代目の会長は同じく1期生の黒崎浩己さんが4年間務められ、黒崎さんの後を11期生の私が務め、12年目となります。そして本年でトータル30年目を迎えることができました。同窓会のホームページに同窓会会報の創刊号が掲載されていますので、是非目を通していただきたいと思います。大変懐かしい皆様の名前や写真を見ることができます。

同窓会の活動も時代とともに変化してきました。同窓会雑誌（現、ふなかわら）の発行、会員名簿の発行、年4回の幹事会、年1回の総会及び総会後の特別講演会と懇親会の開催は当初から行ってきたと記憶していますが、実践社会薬学講座の開催、日本薬剤師会の学術大会の機会を活用した地区交流会の開催、卒業生への記念スパテルの贈呈等、徐々に活動内容が広がってきています。

実践社会薬学講座は、卒業生が講師となり、学生に対して自分の社会人としての経験を語るというもので、ユニークな取り組みと評価されました。平成8年に任意事業として開始され、平成9年には選択科目として大学に認知された活動となりました。平成27年に終了するまで、実に20年間継続した活動でした。今後は、卒業生に限らず社会人から学生に講義をする講座が大学主催で継続されることになっていると聞いています。実践社会薬学講座を開始する際に、担当の先生から英語名が必要となるので考えて欲しいと要請されたことを覚えています。Practical Socio-Pharmacyで如何かと答えた記憶があります。現在、この活動に代わる同窓会としての事業について検討しており、いずれにしても学生のためになる事業にしなければなりません。

地区交流会も、同窓会の事業として定着しています。日本薬剤師会の学術大会は各都道府県が持ち回りで開催されますので、開催県や近県にお住まいの同窓生と交流することができ、また、最近は理科大学でお世話になった先生も参加していただき、楽しい会になっています。本年の日本薬剤師会の学術大会は東京で開催されますので、神楽坂付近で地区交流会を開催すべく検討しています。多くの卒業生の参加を期待しています。

会員名簿は同窓会にとって大変大事なツールであり、当初は印刷物として概ね5年一度作成していましたが、平成18年（2006年）からはCD-ROM版としました。しかし、個人情報保護制度が適用されていることから、



石井甲一会長 学生時代（右端）

HP上に名簿サイトを設置し、会員自らが開示してよい範囲（住所、電話番号、メールアドレス等）を登録する方法を検討しています。今年度中に稼働する予定ですので、会員の皆さんのご協力をいただきたいと思います。

年4回の幹事会への参加者も増加してきました。本年4月の幹事会には30人を超える皆さんに参加していただき、恒例となった幹事会後の懇親会では座る場所がないほどでした。

同窓会は他では得られない情報交換の場であるとともに、卒業生と母校との橋渡しの役目も果たす必要があると思います。本年7月の総会では会長以下役員の改選を図る予定です。4代目の会長に23期卒の上村直樹さんを推薦することを4月の幹事会で決定しました。23期ではありますが人生経験豊富であり、それなりの年齢になっていることから素晴らしいかじ取りを行っていただけると期待しています。副会長は会長指名となりますので、7月までに決めていただくこととなります。組織は時代とともに若返りが必要であり、新たな発想で組織を発展させていくことが大事だと思います。

他大学に移られるまで同窓会を切り盛りしていただいた石坂先生には、安定した会費の徴収が可能な方法を提案していただき、まさに同窓会の恩人だと感謝しています。30年間という長きにわたって同窓会を維持できたのも、これまでの役員や幹事、特別講演をお願いした皆さま、そして東京理科大学薬学部の全ての同窓生の皆さんのお陰であると、改めて感謝申し上げます。

私自身は、様々な事情があり、日本薬剤師会及び日本薬剤師連盟の仕事をしばらく続けることとなりますので、日本薬剤師会の学術大会時の地区交流会で皆様にお会いすることとなります。本年は東京、来年は石川県、その次が山口県まで決まっています。楽しみにしております。

最期になりますが、同窓会の活動が益々活発になり、同窓生にとって楽しく、かつ、役に立つ存在として発展することを願っております。

ご挨拶

薬学部長・大学院薬学研究科長 鍛冶 利幸



昨年10月に薬学部長・大学院薬学研究科長に就任いたしました鍛冶と申します。同窓会の皆様にご挨拶申し上げます。

生まれも育ちも富山県です。保育園から大学院まで富山県で過ごし、最初の就職も富山医科薬科大学附属病院でした。専門は毒性学・環境健康学で、教育も研究も衛生薬学領域で活動しています。大学病院に勤務していた経験を持つ基礎研究者は薬学では珍しいと思います。東京理科大学には2010年の4月に教授として参りました。昨年、図らずも薬学部長・大学院薬学研究科長という大役を仰せつかり、東京理科大学薬学部の現状と将来を、私なりに毎日真剣に考えています。

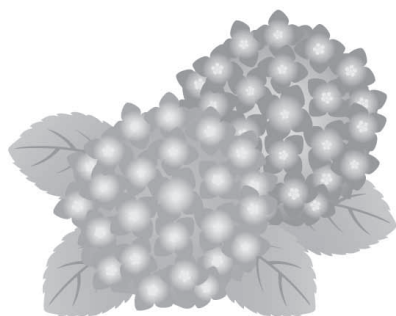
理科大薬学部は毎年同じ数の学生を受け入れる薬学科（6年制）と生命創薬科学科（4年制）の2学科で構成されています。後者ではほとんどの学生が大学院修士課程に進学しますので、両学科とも6年間一貫教育を行っていることになります。薬学科の定員100名は私立大学では4番目に小さく、一方、生命創薬科学科の定員100名は日本で最大規模です。いうまでもなく研究重視が理科大薬学部の理念であり、それが体现されていると思います。私は、薬学科からは、将来、中核的医療機関において指導的立場で医療に貢献する薬剤師を輩出したいと思います。同時に、創薬に関与する研究者・技術者や薬事衛生行政を担当する公務員も出していきたい。また、生命創薬科学科からは、先端創薬科学を担う研究者だけでなく、化粧品・化学・食品など幅広い分野で薬学を活かして活躍する研究者技術者を輩出したいと思っています。

薬学は薬剤師が拠って立つ科学的基盤です。薬剤師法はその第一条で薬剤師の任務を「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生

活を確保するものとする」と定められています。すなわち、薬学は「薬を正しく使う」「薬をつくる」「国民の健康をまもる」ための総合健康科学です。薬学科と生命創薬科学科の学生は共通してこの科学を学ぶのであり、そこに本質的な違いはありません。学科は2つでも薬学はひとつなのです。同時に、その科学的基盤の上に薬学臨床を学び卒業研究で研鑽して薬剤師免許を取得していくのが薬学科の学生であり、卒業研究から修士課程の3年間を一貫して研究に取り組み研究者技術者として成長していくのが生命創薬科学科の学生なのだと理解しています。こうした考えに基づいて、両学科の共通性と独自性を両立する教育を確立することが不可欠だと認識しています。

薬学の定義に基づき、薬学教育は基礎系の教員と実務臨床系の教員によって担われています。しかしながら、全国的視野に立つと、薬学部における教員養成機能は確実に低下しています。「次の時代の薬学部の教育を誰が担うのか」を考えると空恐ろしくなります。実務家教員と他学部出身者で薬剤師を養成することなどあり得ないでしょう。この問題は現在の薬学教育制度が内包する深刻な問題であり、一朝一夕には解決できないのですが、研究重視の理念を基に優れた2学科を有する理科大薬学部だからこそできる貢献が重要だと考えています。理科大薬学部の2学科は、大学院教育、特に博士課程・博士後期課程の教育に連動させて、将来の薬学教育を担う研究者の養成にも貢献しなければなりません。

高い理想を実現することは、不可避免的に大きな困難を伴います。薬学部同窓会の皆様は、理科大薬学部の高い社会的評価に多大に貢献してこられました。私も及ばずながら一所懸命に理科大薬学部の発展に貢献する所存です。ご支援をよろしくお願いいたします。



新任の挨拶

鈴木 立紀（疾病病態学・臨床薬理学研究室）



平成29年4月より本学薬学部薬学科准教授を拝命いたしました鈴木立紀と申します。私は東京大学薬学部を卒業後、北里大学医学部に学士入学し、薬剤師として調剤薬局でアルバイトしながら医師となり、東京医科歯科大学第二内科に入局しました。JA長野厚生連北信総合病院では内科研修医／腎臓内科医として他科の医師やメディカルスタッフとも協力して昼夜を問わず診療に当たり、地域の中核病院の一員としての役割も果たしてきました。その後は東京医科歯科大学腎臓内科、北里大学医学部薬理学、米国ペンシルバニア大学医学部にて基礎研究が中心の生活を送りましたが、同時に医師として治験業務にも携わっていた関係で、帰国後は昭和大学臨床薬

理研究所にて治験や臨床試験の実働部隊として従事しました。

本学着任にあたり、自らのストロングポイントは、①現役内科医の立場で疾病や病態の教育ができること、②医師として臨床研究を主導できること、だと考えております。また、細々とではありますが、今後も非常勤内科医としての診療業務も継続していく予定です。薬剤師の気持ちがわかる医師として薬剤師教育に携われることに喜びを感じつつ、医学部を持たない大学の薬学部に存在する見えない壁に風穴を開けるべく、教育と研究に取り組んでいく所存です。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

新任の挨拶

西川 元也（生物薬剤学研究室）



平成29年4月、東京理科大学薬学部生物薬剤学研究室の教授に着任させていただきました西川元也（にしかわまきや）と申します。廣田孝司教授の後任として研究室を担当することになりました。辞令交付式と引き続き行われました新任教員ガイダンスでは、本山和夫理事長ならびに藤嶋 昭学長、副学長の先生方から身の引き締まるお言葉を頂戴し、「実力主義」を掲げる伝統ある東京理科大学の一員としての思いを新たにいたしました。130年を超える東京理科大学の伝統を継承しつつ、世界で最も魅力ある大学とするために最先端研究に取り組むとともに、国際的に活躍する人材の育成に誠心誠意努力する所存でございます。

私は京都大学薬学部を卒業後、京都大学大学院薬学研究科修士課程に入学し、博士後期課程に進学しました。博士後期課程3年生半ばで、在籍していた薬剤学講座の助手に採用されました。その数年後からアメリカ合衆国ピッツバーグ大学に博士研究員として2年間留学する機会を得、帰国後は同大学院で准教授として15年近くにわたり研究と教育に従事いたしました。出身は京都府福知山市ですので、留学期間を除くと今回初めて京都を離れることになりました。心機一転、新たな環境で何ごとに

も積極的に取り組んで参りたいと思います。

大学4年生のときに薬剤学講座に配属して以来、30年近くにわたり薬剤学研究に携わってきました。なかでも、生理活性物質の体内動態を精密に制御することによる疾患治療の最適化を目指す研究に取り組んでおります。抗がん剤を対象とした高分子化プロドラッグの開発で研究をスタートし、その後、生理活性タンパク質、遺伝子、核酸医薬、さらには細胞と研究対象を広げてきました。この間、①体内動態制御のための新規方法論の提唱・開発、②体内動態定量的評価システムの構築および薬動学的解析、③細胞・疾患モデル動物での有効性の検証・評価、を研究の柱とし、一貫して「最適な疾患治療実現に向けた薬物体内動態制御システムの開発」に取り組んで参りました。今後もこの方針を踏まえつつ、これからの薬学・医療に必要とされる生物薬剤学研究を行いたいと考えております。

もとより微力ではございますが、伝統ある東京理科大学での研究・教育に邁進する所存です。同窓会ならびに大学関係の皆様からのご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成29年度同窓会通常総会および講演会のご案内

本年度の同窓会総会および講演会を下記にて開催致します。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申し上げます。

■日 時：平成29年 7月22日（土）14：00～

■場 所：インテリジェントロビー・ルコ（軽子坂MNビル）

東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル1F

電話：03-3266-9311

●同窓会総会、講演会および懇親会のすべてを上記会場で開催致します。

■次 第：14：00～15：00 同窓会総会

15：00～17：00 特別講演会

（財）日本薬剤師研修センター認定（1単位）

演題「医薬品の新薬開発における品質・製造評価」

安藤 秀一 先生（22期） 第一三共株式会社

製薬技術本部 製剤研究所 所長

演題「医薬分業の歴史と薬剤師を取り巻く環境からみたこれからの薬剤師

（国民・患者のために生きるとは）」

磯部 総一郎 先生（22期） 厚生労働省 医薬・生活衛生局

医療機器審査管理課長

17：30～19：30 懇親会

■会 費：懇親会 5,000円

●●●東京理科大学薬学部 第22期 同期会のご案内●●●

今年度の東京理科大学薬学部同窓会総会は、平成29年7月22日（土）に開催されることとなり（第22期が年度幹事となっております）、その総会において第22期の磯部総一郎さん及び安藤秀一さんが講演されることとなりました（詳細は本誌に掲載されております）。

これを機会に、薬学部第22期の同期会を約15年ぶりに開催いたします。薬学部同窓会に連絡先が登録されている該当者の皆様には案内の葉書を送付いたしましたが、漏れがあるかも知れませんので、本誌においてもご案内させていただきました。お誘い合わせの上、ぜひご出席ください。

幹事一同

記

日 時：平成29年 7月22日（土曜日）

18時30分～20時30分

場 所：理窓会倶楽部

（PORTA神楽坂6階、TEL: 03-3269-1570）

Web: <http://tus-alumni.risoukai.tus.ac.jp/access/guide2>

お問い合わせ先（同窓会事務局）：

jimu@ridaiyakudo.gr.jp

平成28年度同窓会通常総会のご報告

平成28年7月23日（土）の午後、東京・飯田橋にあるインテリジェントロビー・ルコにおいて、平成28年度通常総会が開催されました。出席者は総勢37名でした。総会担当は第21期が務め、司会の吉田雅人の開会宣言、石井甲一会長の挨拶があり、次いで押尾 茂氏（17期）が議長に、青山隆夫氏（17期）および伊集院一成氏（25期）が議事録署名人に指名され、事務局の冨塚朋子氏（16期）が議事録作成を担当し、議題に従って議事が進行されました。

主な議題は次の通りで、いずれの議題も原案の通り承認されました。

1. 平成27年度事業報告
2. 平成27年度決算報告及び監査報告
3. 平成28年度事業計画案
4. 平成28年度予算案

以上の議案審議終了後、吉田より閉会宣言を行いました。

21期 吉田 雅人

第一号議案 平成27年度事業報告

1. 同窓会会報「ふなかわら」第27号の発行
平成27年6月
2. 平成27年度実践社会薬学講座の開催
平成27年4月11日～5月30日（毎週土曜日7日間）
3. 同窓会通常総会の開催
平成27年7月25日
インテリジェントロビー・ルコ

特別講演会

「医療安全に関するトピックス：

医療事故調査制度について、いま知っておきたいこと、準備しておきたいこと」

講演者：

九州大学大学院医学研究院

医療経営・管理学講座 准教授

九州大学病院 病院長補佐

鮎澤 純子 先生（20期）

懇親会

4. 地区交流会の開催
平成27年11月22日
第48回日本薬剤師会学術大会（鹿児島）で交流会開催
5. 平成27年度薬学講座を東京理科大学薬学部と共催
平成27年10月17日
6. 新会員勧誘 資料を269名に送付
平成28年1月20日
平成28年3月卒業者（53期）36名、大学院修了者4名が会費納入
7. 卒業生・修了生全員（279名）に卒業・修了記念品（記念スパーテル）を贈呈
平成28年3月18日
8. 卒業記念謝恩会へ祝金を贈呈
平成28年3月18日
9. 同期会開催（5期、19期、20期、39期）
福室研究室同窓会開催
同期会開催に際し、祝金3万円を贈呈（20期、39期）
10. 薬科大学・薬学部同窓会協議会は欠席
11. ホームページのメンテナンス

12. 理窓会関連団体加入
13. 2015年度版名簿についてWEB登録を検討
14. 幹事会の開催（4回）
平成27年4月4日、7月25日、10月31日
平成28年2月13日
15. 正副会長会の開催
平成27年6月30日

第二号議案

平成27年度会計報告				
東京理科大学薬学部同窓会				
平成27年4月1日～平成28年3月31日				
収入の部		支出の部		
内訳	金額	内訳	金額	摘要
同窓会費	2,792,000	人件費	621,848	アルバイト代
名簿購入代	0	通信費	13,026	さくらインターネット
名簿貸助金など	0	諸案内状印刷発送費	1,024,709	ふなかわら印刷発送（菅原印刷）
預金利息	2,792	郵便代（宅配代も含む）	92,418	郵便代・宅配代
総会懇親会参加費	330,000	講演会謝金	0	講師御礼
地区交流会懇親会参加費	115,000	総会経費	79,923	会場費・研修シール代
寄付金	59,000	総会懇親会費	330,770	
		実践社会薬学講師謝礼	36,000	図書券 2,000円×18名
		実践社会薬学情報交換会費	80,000	TUSダイニング
		卒業謝恩会祝金	100,000	
		卒業記念品代	194,400	記念スパーテル300本 矢沢科学
		交際費	30,780	事務課他 お中元・お歳暮等
		同期会協賛金	60,000	2期分（20期、39期）
		地区交流会懇親会費	145,844	
		全薬薬科大学薬学部同窓会協議会費	0	
		文具・事務経費	47,621	
		ホームページ維持費	60,000	
		雑費	62,000	理窓会関連団体交流会懇親会費 活金（重資会費、名簿代等）
		資産へ繰り入れ	319,453	
合計	3,298,792	合計	3,298,792	

資産内訳	
郵便局振替口座	1,460,999
定期預金	4,528,954
普通預貯金	8,536,300
普通預貯金（名簿用）	1,972,109
現金	1,335,224
計	17,833,586

平成28年 7 月 5 日

会計 岡宮 智子

監査報告

会計報告の各事項を調査し、その収支ともに正確であることを認めます。

平成28年 7 月 6 日

会計監査 青山 隆夫

草本 記子

第三号議案 平成28年度事業計画案

1. 同窓会会報「ふなかわら」第28号の発行
平成28年6月
2. 同窓会通常総会の開催
平成28年7月23日

インテリジェントロビー・ルコ
特別講演会
「放射線によるDNA損傷と修復機構
～最近の話題から～」

講演者：

Department of Radiation Oncology
Houston Methodist Research Institute
Weill Cornell Medical College

掘越 信夫 先生（21期）

「大学をめぐる動き：入口（入試）と出口（就職）」

講演者：

公立大学法人 富山県立大学

工学部・生物工学科

（生物工学研究センター兼務）

生物有機化学講座 教授

キャリアセンター所長

中島 範行 先生（21期）

懇親会

3. 地区交流会の開催 平成28年10月9日
第49回日本薬剤師会学術大会（名古屋）で交流会
開催
4. 平成28年度薬学講座を東京理科大学薬学部と共催
平成28年10月15日
5. 新会員勧誘 資料を送付 平成29年1月
6. 卒業生・修了生全員に卒業・修了記念品（記念ス
パール）を贈呈 平成29年3月
7. 卒業記念謝恩会へ祝金を贈呈 平成29年3月
8. 同期会開催に際し、祝金3万円を贈呈
9. ホームページのメンテナンス

10. 名簿についてWEB登録の準備

11. 幹事会の開催

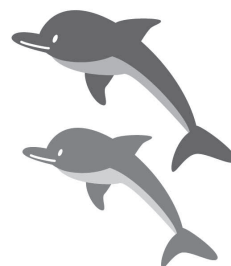
（平成28年4月9日、7月23日開催

平成28年10月、平成29年1月を予定）

12. 正副会長会の開催（平成28年7月2日）

第四号議案

平成28年度収支予算案			
東京理科大学薬学部同窓会			
平成28年4月1日～平成29年3月31日			
収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	2,680,000	人件費(アルバイト代)	650,000
総会懇親会参加費	300,000	通信費(さくらインターネット)	15,000
地区交流会懇親会参加費	200,000	印刷発送費(ふなかわら)	1,070,000
		郵便代(宅配代も含む)	100,000
		講演会謝金	50,000
寄付金など	24,000	総会経費	100,000
預金利息	3,000	総会懇親会費	300,000
		卒業謝恩会祝金	100,000
		卒業記念品代(記念スパール)	200,000
		交際費(事務課他 お中元・お歳暮)	30,000
		同期会協賛金(6期分)	180,000
		地区交流会懇親会費	200,000
		理窓会関連団体交流会費	10,000
		文具・事務経費	50,000
		ホームページ維持費	60,000
		予備費	92,000
普通預貯金(名簿用)取崩し	1,000,000	名簿関連費	1,000,000
合計	4,207,000	合計	4,207,000



平成28年度同窓会講演会のご報告

平成28年7月23日（土）同窓会第二部の特別講演では、21期の米国Houston Methodist Research Institute Assistant Member、コーネル大学Weill医学校助教授 掘越信夫先生から「放射線によるDNA損傷と修復機構～最近の話題から」と富山県立大学工学部生物工学科教授 中島範行先生から「大学をめぐる動き：入口（入試）と出口（就職）」という演題でご講演いただきました。

掘越先生は、本学をご卒業後、1989年（平成元年）、東京大学にて博士号を取得。その後渡米し、ペンシルバニア大学ウイスター研究所、プリンストン大学、さらに、ハーバード大学医学校、ワシントン大学医学校助教授を経て2014年（平成25年）から現職で、主に生体に対する放射線傷害、特にDNA損傷とその修復機構に関する研究分野で活躍されております。また、中島範行先生は、

本学をご卒業後、1990年（平成2年）に北海道大学にて博士号を取得され、同大の助手等の教職や米国イリノイ大学への留学、相模中央化学研究所での研究員生活を経て、1996年（平成7年）から富山県立大学生物工学研究センター助教授、2005年（平成17年）より同大同センター教授、そして2006年（平成18年）より同大工学部生物工学科の教授に就任され、ご自身の研究の傍ら、大学入試改革や学生の就職支援に積極的に取り組んでおられます。

掘越先生の講演内容は、最近の放射線傷害に関する最も重要で、かつ、直視せざるを得ない話題である東日本大震災発生時に起きた福島第1原発事故の話から始まり、放射線の種類とその生物への影響（すなわちDNA損傷）、自然線源（地殻、宇宙放射線等）や人工線源（CT、

レントゲン等の医療機器等)からの被爆とその影響、さらには、先生の研究テーマである放射線によるDNA損傷の修復機構とその調節メカニズムについて、非常にわかりやすく説明いただきました。先生のご研究は、将来、正常細胞に対する放射線傷害の最小化やがん細胞での放射線による致死効果を最大化することに繋がることが期待されるとのことでした。

中島先生の講演内容は、大学入試制度改革、学生の就職率向上に向けた大学の支援活動等の取り組みが中心でした。大学入試は、2020年度から、これまでのセンター試験を廃止し、いわゆる「知識偏重」から面接や小論文などによる選抜に変えるなど、受験生を多面的に評価するようになるようです。大学入試制度・内容の改革は、大学教育そのものの改革であるとの先生のコメントは、ある意味、大学教育者としての大いなる決意を垣間見た気がしました。また、就職率向上の取組みとして、大学自ら、企業に提出するエントリーシート作成講習会や模擬面接指導等も実施しているとのことで、私が学生時代

とは違って、大学側が積極的に学生の就職活動を支援している話を伺い、ある経済誌の調査では、2013年～2015年の3年間の理工系就職率が、先生の大学は第1位であったことも合点がいった次第です。なお、講演の冒頭で、先生の研究テーマの紹介がありましたが、青色のチューリップ開発をすることで発色メカニズムの研究を深めるなど、非常にユニークな研究をしておられることも印象に残りました。

お二人の講演内容は、ある意味、別な方面の話ではありませんでしたが、掘越先生の話は、私ども製薬業界人や医療従事者、薬学研究者にとって、大変有意義なものでしたし、また、中島先生の話は、大学教育改革の話ですので、本学がどうなるのか含め、興味がないわけがありません。私自身、今回の講演内容にとっても感銘を受けましたし、同期生が、国内外で頑張っている姿を直接感じることでできた本同窓会に感謝します。明日から自分も頑張れる気がしてきました。

21期 藤原 良



1期～20期



21期以降

第33回 薬学講座 開催要項

期 日	平成29年10月14日（土）
時 間	10：30 ～ 16：40（10：00 受付開始）
定 員	240名
場 所	東京理科大学神楽坂キャンパス 1号館17階（記念講堂）
参 加 費	2,000円（講演要旨代を含む） ※ 昼食代は含まれておりません。
主 催	東京理科大学薬学部
共 催	東京理科大学生涯学習センター 東京理科大学薬学部同窓会 公益財団法人日本薬剤師研修センター

● 開催の趣旨 ●

薬学講座は、薬剤師のスキルアップのために毎年、最新の医学・薬学領域の情報を始め様々なテーマでの講義を提供しています。今回はこれまでにあまり話を聞く機会がなかった分野を中心にご講演をお願いしました。木内先生には局方収載生薬・漢方薬を品質という観点から、川原先生には生薬の原料となる薬用植物の国内栽培の現状と動向をお話いただきます。また、がん関連の話も、野口先生にウイルス関連がんの治療、若林先生に環境及び食品中の発がんに関する発生と予防をご講演いただきます。

受講生の皆さまの業務の一助になることを願いつつ、また文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業にも役立つような薬学講座を企画しましたので、奮ってご参加して頂けますよう、お願い申し上げます。

● 講座のお申し込み方法について ●

原則、インターネットでのお申し込みのみとさせていただきます。インターネットがご使用になれない方は、東京理科大学生涯学習センターまでお問合せください。なお、受付期間は平成29年8月1日（火）から平成29年10月5日（木）までとさせていただきます。また、定員になり次第締め切らせていただく場合もありますのでご了承ください。

インターネットによるお申し込み

東京理科大学生涯学習センターのホームページからお申し込みください。

<http://www.tus.ac.jp/manabi/>

受付結果の送付

お申し込み受理後、受付結果（受講証）と振込用紙を郵送いたします。

受講料の納入

振込用紙を使用し、コンビニエンスストアかゆうちょ銀行で受講料を納入してください。

講座の受講

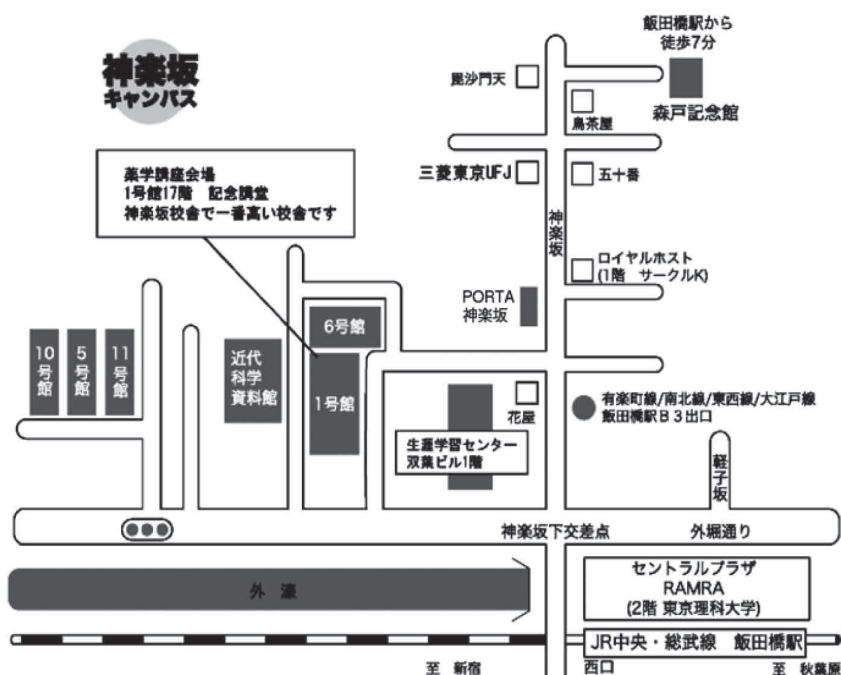
受領印の押された振込用紙の受領証を、受講証の指定箇所に貼付してください。

講座当日には、受講証及び筆記用具をお持ちください。

第33回 薬学講座プログラム

10:30～10:35	開会の辞	実行委員長	羽田 紀康
10:35～10:40	学部長挨拶	東京理科大学 薬学部長	鍛冶 利幸
10:40～11:50	「日本薬局方の規格から見た生薬・漢方薬の品質」		
		慶應義塾大学 薬学部 教授	木内 文之
＜11:50～12:40 昼食・休憩＞			
12:40～13:50	「薬用植物国内栽培化の現状と課題 ～薬用植物資源研究センターの取り組みを中心に～」		
		国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センター センター長	川原 信夫
＜13:50～14:00 休憩＞			
14:00～15:10	「ウイルス関連がんと治療薬」		
		慶應義塾大学 薬学部 准教授	野口 耕司
＜15:10～15:20 休憩＞			
15:20～16:30	「がんの発生要因とその予防」		
		静岡県立大学 食品栄養環境科学研究所 特任教授	若林 敬二
16:30	閉会の辞	実行委員長	羽田 紀康

※今回の薬学講座は公益財団法人
日本薬剤師研修センター研修認
定薬剤師制度の認定対象研修会
であり、参加される場合は、3
単位の修得となります。
ご希望の方は、当日会場にて受
講シールをお受取りください。
なお、途中入退場者にはお渡し
出来ません。実質4時間30分を
受講した方に受講シールをお渡
しします。



お申し込み先



東京理科大学生涯学習センター

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3

TEL: 03-3267-9462 FAX: 03-3267-2048

E-mail: manabi@admin.tus.ac.jp

URL: <http://www.tus.ac.jp/manabi/>

研究室紹介 青山（薬物治療学）研究室



薬物治療学研究室 教授 青山 隆夫

【はじめに】

私は、1980年（昭和55年）に本学薬学部製薬学科を卒業した後（第17期）、東京大学医学部附属病院薬剤部の研修生となり、翌年に薬剤師技官として入職してから23年間、職種は助手、講師へと変わりましたが、一貫して薬剤師業務、臨床薬学研究、薬学生と医学生の教育に従事しました。その後、2004年（平成16年）に本学に移り、福室憲治先生が御退職された後の薬物治療学研究室を引き継ぎ、実務家教員として理科大の6年制薬学教育の構築に関与して現在に至っています。薬学部、ひいては母校に戻るとは露程も考えなかった転職ですが、大学病院での特殊で様々な経験が薬学教育に活かさればと思い決断しました。

【薬学6年制教育の構築】

薬学部に移って14年目になります。当初は、学生時代にお世話になりました先生方とともに新しい薬学教育の立ち上げを行いました。具体的には早期体験学習（1年生、病院・薬局および企業などの見学を通して将来の自分をイメージさせ、勉学へのモチベーションを高める教育）、医療薬学実習（4年生、薬剤師業務に関する知識・技能・態度の教育）、共用試験（4年生の終盤、実務実習を行うための仮免許試験であり、知識を問うCBT: Computer based testingと技能および態度を問うOSCE: Objective structured clinical examinationの二つの試験から構成される）、長期実務実習（5年生、病院・薬局での臨床実習、ともに11週間）の構築、医療薬学実習棟（16号館）の計画、実務実習を依頼する医療機関の確保などに奔走しました。現在は、私の後に入職した先生方とも力を合わせて、理科大ならではの特色を出せる教育・研究体制を作ろうと四苦八苦する日々を送っています。

【研究室での活動】

研究室では、歴代の助教の赤木祐貴博士（37期OB、



現国立横浜医療センター）、下村斉博士（37期OB、現化学療法研究所附属病院）、河野洋平博士（現職）に助けられ、大学院生や卒研生と一緒に、病院での経験や多くの人との出会いを活かしつつ、1. 新規製剤の開発、2. 薬物相互作用の解明と回避方法の構築、3. 薬剤の適正使用に関する研究などを行っています。薬物治療は医療における最も有用な手段の1つであり、薬剤師はその有効性を最大限に引き出し、かつ安全性を確保するために、チーム医療スタッフの一員として、薬学的知識および技術を駆使しながら調剤、製剤、患者に対する薬学的管理などを行っています。薬物治療における薬学的問題点を薬剤師の視点から抽出・解析し、解決方法を構築することは大切であり、その考え方と能力はどの職業に就いても生きてくると思います。

2017年4月現在のスタッフは24名で、内訳は、教授1名、助教1名、大学院生4名、薬学科学生4～6年生18名であり、卒業後の進路は病院に就職する者が大半を占めています（2017年3月までの卒業生74名中の51名が病院に就職しました）。

1. 新規製剤の開発

病院時代に院内製剤の調製に関与していた経験を生かしました。院内製剤とは、患者に適した新規剤型への変更や、臨床での必要性は高いが製薬会社の開発ベースに乗らない薬剤を院内で調製する業務であり、薬剤師の知識・技能を生かした貴重な職能と言えます。物性試験、安定性試験などから製剤処方を決定し、動物実験により体内薬物動態や効果および安全性を確認した上で臨床試験に進みます。慢性裂肛に対する λ -カラギーナンを用いた徐放性ジルチアゼムクリーム、尋常性痤瘡（にきび）に対するシクロデキストリンで包接したスピロノラクトン水性ゲル、がん患者の口内炎に対するメサラジン熱感受性ゲルなど、臨床のニーズをもとに開発を開始しました。アスピリンパッチは経口剤のアスピリンによる消化性潰瘍やNSAIDsとの相互作用を回避するために、結核に用いるリファンピシンの液剤は市販カプセル剤では対応できない微妙な投与量設定に用いることを目的としています。体内動態の検討には、病院でのTDM業務、臨床研究や動物でのPK-PD解析が役立ちました。

2. 薬物相互作用の解明と回避方法の確立

超高齢化社会を迎え、一人の患者が複数の疾患を罹患して複数の薬剤を用いることが多くなっています。それに伴い製薬会社が医薬品開発で想定する以外の薬剤やサプリメント、食品との組み合わせでの相互作用により、

効果の減弱、副作用発現などの危険性は増しています。そこで、臨床で問題となりうる組み合わせについて、血液を使った*in vitro*実験や動物での*in vivo*実験、および臨床試験により相互作用の有無や強度について検討し、相互作用を回避する用法・用量、服用時期を提案します。

a) アスピリンの抗血小板作用に対する併用薬の影響

アスピリンを低用量で用いると血小板のシクロオキシゲナーゼ (COX)-1に非可逆的に結合することによって抗血小板作用を発現するため、心疾患や脳血管障害の二次予防に頻用されていますが、同様にCOX-1に可逆的に結合する非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) を併用するとアスピリンの結合を阻害して抗血小板作用を減弱することが予想されます。そこで、各種NSAIDsによる影響についてヒト多血小板血漿を用いた併用添加実験、ラットへの経口投与実験により検討した結果、NSAIDsの種類によって阻害の程度が異なり、特に本邦で頻用されているロキソプロフェンは、臨床試験においても同時投与でアスピリンの抗血小板作用が減弱する可能性が示唆されました。しかし、多くの場合にアスピリンを先に投与すれば相互作用を回避できることがわかりました。現在は、抗うつ薬の選択的セロトニン再取り込み阻害薬やCa拮抗薬とアスピリンとの相互作用や、患者レセプトのビッグデータを用いた疫学的調査によって相互作用によるイベント発生への影響を検討しています。

b) 肺MAC (*Mycobacterium avium* complex) 症治療薬における薬物相互作用

非結核性抗酸菌症の約80%を占める肺MAC症は、排菌患者からの飛沫核感染から発病に至る結核とは異なり、宿主の日和見感染により発病する慢性疾患であり、近年、加速的に罹患者が増加しています。本邦では、クラリスロマイシン (CAM) を主薬として、耐性菌発現予防のためにリファンピシン (RFP) とエタンブトールとの長期多剤併用療法が推奨されていますが、有効率は6~8割であり治療に難渋しています。キードラッグのCAMを代謝する酵素であるCYP3A4を併用薬のRFPが誘導することから、CAM濃度の低下による効果減弱に加え、耐性菌発現の助長が原因として考えられますが、長期的にCAM濃度の推移を検討した例はありません。そこで、医療機関と共同で、肺MAC症患者の血中MAC濃度を約2年間に渡りモニターした結果、治療開始後2週目から継続して初回投与時の半分以上の濃度であり、長期的な濃度低下が治療成績不良の原因の一つである可能性を示しました。

一方、いずれかの薬剤で副作用が発現した場合にはレボフロキサシン (LVFX) などのフルオロキノロン (FQ) を用いますが、LVFXの併用により治療効果が減弱することが本研究室の疫学的調査において示唆されました。この原因として血中から肺への移行過程において薬物トランスポーターであるMDR1でのCAMとの競合が考えられるため、マウスを用いて両剤を併用した場合の血中と気道上皮被覆液中CAM濃度の変化を検討しています。



さらに、ヒト気管支腺由来細胞などを用いた細胞膜透過性試験により、相互作用へのMDR1の関与を明らかにするとともに、肺MAC症の治療効果を高めうるFQを模索しています。

その他には、骨粗鬆症治療の第一選択薬であるビスフォスホネート系薬の消化管吸収に対するミネラルウォーターの影響についての検討や、昨年からは、河野助教を中心に、カフェイン/シスプラチン併用がん化学療法の有効性に関する研究を開始しています。

3. 薬剤の適正使用に関する研究

注射薬が輸液ラインやフィルターなどの医療器具に吸着して必要量が投与されずに期待された効果が得られないことがあります。小児や新生児においては投与量が少ないため吸着の影響が大きくなることが予想されますが、有用なデータは存在せず、臨床では経験的な投与量設定が行われています。NICUの医師からの依頼でインスリンの吸着について検討した結果、患者にインスリンがほとんど投与されてないことが明らかとなり、提案した吸着回避方法を実施したところ良好な血糖コントロールが達成できました。その他、後発医薬品やOTC薬の適正使用にする研究や薬剤師業務の評価に関する研究を行っています。

【おわりに】

私の研究室の学生に限らず、相手を思いやる心、患者や社会のために貢献しようとする気持ちを持った者を社会に送り出すことが使命だと思っています。卒業生が社会で一所懸命に働いている姿や活躍している姿を見ることはこの上ない幸せでもありますので、残された時間で学生や母校のためにできることは何でもやる覚悟です。

さて、薬学がカバーする分野は広汎であり、その中で臨床に近い分野として医療薬学があります。日本薬学会医療薬科学部会では例年、「医療薬学フォーラム・クリニカルファーマシーシンポジウム」という学術大会を開催しており、実は、来年の第26回大会の実行委員長を任せられました。日程は2018年6月23日(土)24日(日)、場所は東京ビッグサイトTFTホールです。関係される同窓会会員の皆様には、是非、大会への御参加と演題発表の御申し込みをされますようお願い申し上げます。

最後に東京理科大学薬学部同窓会の益々の御発展と、会員の皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。今後とも御指導御鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

恩師からのたより

理科大薬学部卒業同窓生の皆さんへ

久保田 和彦



私は今年の9月で満88歳になります。理科大を停年で辞めたのが66歳ですから、もう22年の歳月が流れています。私の7名の兄達の寿命は長くて81年でしたから、私は兄たちより異常に長い寿命に恵まれている。

私が学部長をしていたころ、生命科学がブームとなり、私は総合研究所に生命科学部門を創設し、それが母体となって、野田キャンパスのセミナーハウスの前に、3階建ての生命科学研究所が創設された。私はそこに老化難病研究領域を設け、その主任教授を兼ねた。これが契機となって私は老化学に手を染め、定年後は自らを実験動物代わりにして、老化に関する情報を参考にしながら、久保田式老化防止・長寿術を試みてきた。私が、今もお生き、自立的生活ができているのは、そのお陰と思っている。私自身の定年後の大きなイベントでは、平成12年に理科大名誉教授になり、20年に瑞宝中綬賞を受賞、27年に熊大（母校）学長賞を授与されたことです。瑞宝中綬賞というのは、私大の名誉教授にとってはかなりの難関で、理科大では、前学長、私を含めて5名しか受賞していない（瑞宝中綬賞以上の受賞者名は全国紙に公表される）。瑞宝中綬賞は、勲章と、理科大の学位記の4倍ほどもある大きな勲記からなる。勲記には「日本国天皇は久保田和彦に瑞宝中綬賞を授与する、皇居において璽をおさせる」と記されており、{大日本国璽}と刻まれた大きな角印が捺されている（写真）。

せっかくの機会ですから、乏しい紙幅ではあるが、皆さんに久保田式老化防止の術を少々紹介しましょう。老化とはなにか。老化学では無難に「細胞が動的平衡状態を維持できなくなった状態をさす」という。老化といえは、細胞分裂におけるヘイフリックの限界、テロメアの短縮説が有名だが、神経や心筋など分裂しない細胞の老化は説明できない。2年ほど前にハーバード大学とオーストラリアの研究者たちが、マウスにNAD (nicotinamide adenine dinucleotide) を大量に投与し、2年ほどの老化マウスを200日マウス

ほどに若返らせることに成功した（ヒトに当てはめると60歳を20歳ほどに）。NADは長寿遺伝子のサーチュイン遺伝子を活性化するため、ともいう。ミトコンドリアのクエン酸回路が一回転すると、NADが還元され、3モルのNADH₂が作られる。NADH₂は電子伝達系で酸素を還元し、その際に得られるエネルギーでADPをATP（全細胞が生きるために必須のエネルギー源）に変える。NADはATP生産量を上げたために若返らせたとは私は考えている。卵巣からミトコンドリアを採取して卵子に注入すると、かなり高齢女性の卵子でも受精可能という研究もある。ATP生成速度の低下してしまった私は、ナマケモノ（代謝速度が遅い）のように、歩行などの動作が緩慢になり、床からの立ち上がりに苦勞し、鍛えても筋力が上がらない。ミトコンドリア→クエン酸回路→NADH生成→電子伝達系→ATP生成過程で、全体の速度低下こそが老化の核心であり、この軸の速度を上げることが老化防止、更には若返りの鍵を握っていると私は思っている。いずれにせよ、時代は今やAntiaging からrejuvenation（若返り）の時代に突入したというわけだ（ただし、ヒトでは若返りのために一回投与に要するNADHの費用は5万ドルほどかかるという）。あと30年もすると、一般の人にも若返り時代がやってくる見込みともいう。皆さんはその若返り時代に間に合うかも。もしそうなれば、122年164日生きた人類の最長寿者、ジャンヌ・カルマンさんどころか、旧約聖書の創世記に出てくるメトシェラ（969歳まで生きた。聖書であるからには、嘘偽りのあろうはずもない！）をも凌ぐことができる！かもね。

これでは夢物語りに終わり、申し訳ないから、若返り法ではないが、私のアンチエイジング法を少々お話ししよう。長生きには、心・技・体の3術が要る、と私は思う。先ずは心。あくせくはやめよう。激しいストレスはラッ

トに1時間でも胃潰瘍を作らせる。106歳まで生きた曹洞宗の宮崎奕保大禪師は言う「心身は一如やから心を真っ直ぐしないとあかん」と。ジャンヌカルマ・カルマンさんは笑いなさい、と勧めた、ごく最近の東大の研究によると、殆ど笑わない人は、毎日笑う人より脳卒中や心臓病が1.45～1.95倍も多いという。笑い学会で、しっかり笑わせるとナチュラルキラー（NK）細胞が増えるといい、アメリカの研究者によると、怒りっぽい人ではCRP（炎症マーカー）が2～3倍も高かったという。



血糖値が高い（HbA1c値が大きい）と、有害なAGE（蛋白質の糖化最終産物、Advanced glycosylation end-products）生成の原因となる。食餌を工夫し、摂食・運動などで血糖値（HbA1c）を低く（できれば、6以下に）保とう。大衆も良く知っている活性酸素（O₂マイナスや一重項酸素など）は有害であるから、これを減らす工夫も必要。そのために、有色野菜やミカン、鮭などに豊富に含まれるカロテノイドを多く摂取しよう。ブルーベリーなどに多く含まれるポリフェノール類（フラボノイドなど）、は腸からの吸収が良好とはいえない。一番強く、安全で、血中でも効果確実なものは、アスコルビン酸であろう。ただし、最大でも一日2g以下が安全（大量は有害）。腸内細菌叢を良好に保つのは極めて重要。ウェルシュ菌などの悪玉菌が増えると、腸内に発癌物質を増やし、直腸癌を作らせ、糞便中に悪臭物質のスカトール（牛の胃で大量発生すると活性酸素を肺で作らせ、時に牛をも殺す。発癌物質でもある）やヒスタミン（悪臭物質の一つで蕁麻疹やめまいの素）が増える。ビフィズス菌や乳酸菌を腸内に増やすと、腸内に乳酸・酢酸が増え、有害菌を減らし、体内最大の腸免疫機構を良好に保ち、乳酸などで腸運動を促して便秘を防ぐ。私はもう20年も、乳酸菌、ビフィズス菌を増やすオリゴ糖（今は医療用ラクツロースを数日おきに3グラムほど）を飲んで健康を維持している。ラクツロースは、大量（脱水を起こすので、静脈内点滴で防ぐ）では乳酸菌とビフィズス菌を短時間で腸内に爆発的に増やし、生じた乳酸と酢酸でアンモニアを中和するので、重症肝障害患者における脳障害を防ぐのに使われる。外部から与えた乳酸菌は5%ほどしか生きて大腸に達せず、増えもしない。乳酸菌・ビフィズス菌を増やすオリゴ糖は、この点でも優れている。

高齢者の死因の主たるものは、肺炎（誤嚥性を含む）、心臓・血管疾患、癌の三因である。これらを早い時期から防ぐことは長寿に直結する。心臓近くの大動脈の硬さは、最高・最低血圧の差（脈圧）で容易に知ることができる。心室弛緩時の血圧低下は、心臓近くの、心室収縮時に拡張した大動脈の収縮で防いでいる。大動脈が硬いと、ここが心臓弛緩時に収縮しないから、最低血圧が大きく低下し、最高血圧と最低血圧の差、脈圧が大きくなる。脈圧が65mmHg以上では動脈硬化が疑われ、90ともなると、動脈はひどく硬化していることを示唆する。

癌を防ぐのは現在でも困難であるが、他の2因は工夫次第で防御可能である。中枢神経細胞の維持は容易でないものの、まずは良好な睡眠を工夫し、7～8時間の睡眠時間を確保しよう。ネズミに学習させると、海馬の神経にスパイン（ここでシナプスを作る）が増えるという研究もある。高齢になるほど、短期記憶力と記憶の想起が衰える。脳は、Use it, or lose it（語呂合わせ）、で、脳を使う努力をしよう。

指運動、麻雀、カラオケ、なんでもよい。DHA、EPAの摂取、高濃度ココア含有チョコレートの摂取などがお奨め。高齢になっても筋力を維持し、骨折に注意し、

虚弱化を防ごう。

ところで、人の寿命の長さは何が決めるか。遺伝子であることに異論はない。前述したテロメア説は言うに及ばず、例えば、ラミンAという遺伝子の核塩基に、たった一つの変異（一塩基多型）という最小変異が生じた（突然変異）だけで、遺伝子産物のアミノ酸一つが異なり（鎌状赤血球症も1塩基多型による）、老化が8倍もの速度で進行し、13.5年ほどの短命に終わる。また、イタリアのサルディーニャ島に住むメリス9人兄弟姉妹は長女のコンソーラさん（2007年に107歳）以下9人の年齢総計が2017年時点でなんと818歳。稀な長寿に適した遺伝子を持つと思われる。それでは、親から受け継いだ遺伝子が長生きに適さない人に、長寿は望めないのか。いや、そうでもないぞ、という希望を抱かせる事実がある。デンマークにある真性双生児（同一遺伝子を持つ）データベースによると、真性双生児の寿命の一致率は25%に過ぎず、75%はライフスタイルに依存していた。努力・工夫次第で、劣悪遺伝子の持ち主でも、ライフスタイルで寿命は長くすることができる、という明るい情報だ。ただし、残念ながら、85歳以降は、親の子の寿命に及ばず遺伝圧力は急に高まる、という。やはり、うんと長生きするためには、親からもらった遺伝子の良さは大切だ。今、私は前述の久保田仮説に基づき、若返りのためにNADの原料となるニコチン酸アミド（B6で、ニコチンアミドともいう）をかなり大量に摂取したり、クエン酸サイクルを順調に廻すためにB1（腸から吸収され易い誘導体）を大量に摂取したりしているが、頭髮1本増えるでもなく、目に見える若返り効果は出てこない。やはり、老化に抗するのは大河の流れに逆らうが如し、である。

かの明治時代の大経済人、渋沢栄一は好んで次の文言を揮毫したという。「天意重夕陽、人間貴晩晴」。天は一日が暮れる夕陽を重んじ、人は晩晴（夕べが晴れること、晩年が良いこと）を貴ぶ。人間は終わりが良くなければならぬ、ということである。

皆さんも、今から晩晴を迎えることができるよう努めましょう。それには、経済的なゆとりは欠かせないが、短命では大きな悔いが残ろう。長寿には、根気よく、科学的な老化防止術に励み、日々良きライフスタイルを保ち、良き心を維持するために、感謝を忘れず、他を慈しみ、愛し、知に働き過ぎず、そして大いに笑おう。終わりに、皆さんに幸多からんことを祈念して、筆を擱く。



平成27年度 熊本大学卒業生表彰
(平成27年10月31日)

近況報告

テルモ（株）レギュラトリーアフェアーズ・臨床開発部
昌子 久仁子（14期）



職業人生40年の中でしばらく仕事から離れたこともあったが、その多くの時間を医療機器開発に携わってきた。

医療機器との出会いは偶然であった。結婚を機に製薬会社を退職し、主婦であった私が新聞広告の募集欄を見たことであった。少し仕事でもやってみようか。軽い気持ちで仕事に復帰することになった。採用してくれた会社は日本での売り上げ50億円ほどの米国医療機器メーカーの日本支社である。

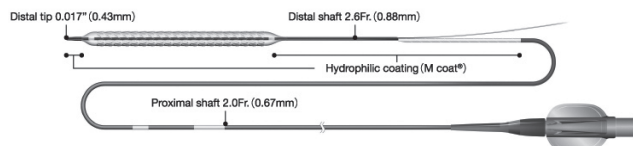
卒業当時は製薬会社の研究所勤務しか思いつかなかった私は、この就職で医療機器と向き合うことになった。医療機器といえば、医療用のハサミ、ピンセット、針、シリンジくらいしか知らず、医療は薬で行うもの、医療機器はその補助との認識しかなかった。その上配属される部署は薬事開発部だという。薬事開発って何をやるのだろうか？

“まあ、何とかかなるでしょう”のケセラセラで臨むことにしたが、イロハのイがわからない。上司からわからないことは自分で解決せよ、と言われ、困り果てたのも懐かしい思い出である。そうこうするうちに冠血管用ステントの薬事開発を担当することになった。米国から送られてきた資料を見てもなんだかよくわからない。ステントって何？辞書を見ても補てん物としか書いてない。暗中模索に陥った。ケセラセラを信条としている私でもこれは“ヤバイ”となったが、周囲の協力を得てどうにか治験を実施し、薬事申請・承認、保険適用までこぎつけた。

ステントを日本上市したとき、前職である製薬会社の先輩から“これまで治療の主役は薬で、医療機器はその補助にすぎなかった。でも本ステントによって医療の世界が変わった。医療機器が主役で薬が補助になった”（ステントを移植すると、異物反応を抑えるため抗凝固剤投与が必要になる）と言われ、ある種の医療の転換期に差し掛かり、治療において医療機器が存在感を持ったことを認識した。この認識が私の心に医療機器開発業務への弾みをつけた。

そんな中で、私の残念な思いがいつも頭にあり、それは薬事法（当時）の中では依然として医療機器は“医薬品等”として“等”の存在しか与えられていなかったことである。医療の世界において医療機器の果たす役割が意味をもって認識されてきたにもかかわらず“等”ではいかにもさびしい。

業界を挙げて医療機器への理解を求める活動をし、また各方面の大きなお力添えがあり、ついに平成25年に薬



テルモ（株）ホームページより

事法が改正され、薬事法改め医薬品医療機器法等（正式名：医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律）と変革を遂げた。“等”からの脱却である。



テルモ（株）ホームページより

大層喜ばしいことではあったが、これは医療機器業界にとって緒についたに過ぎない。この法改正に尽力してくださった方々、国民の皆様にさらに医療機器のイノベーションがいかにか医療に貢献していくか、その結果を示していくことが必要である。

社会保障費の増大に医療機器のイノベーションが歯止めをかけられるか、医療体制をより持続性のあるシステムにするにはどうしていくべきか、我々に与えられた課題は多く、チャレンジャブルである。

日本はすでに世界に冠たる長寿社会であるが、さらに健康長寿社会という高みを目指し、医療機器業が果たす役割は大きく、その貢献が求められている。

医療機器開発は薬学をはじめとして材料化学、物理学、機械工学、電気工学、人間工学などの学問の総合でなし遂げられるものであり、さらにソフトウェアなどのコンピューター工学の進歩に伴いより先端技術の集合体となっている。遠隔手術機器であるダ・ヴィンチやワトソンのような診断サポート機能を期待できるAIを駆使した医療機器は医療手技を大きく変えるものとして期待は大きい。

卒業生、大学で研究教鞭をとっておられる先生方の協力を得ながら、医療機器がさらに発展し、日本発の医療機器が国内のみならず世界に貢献できることを心から念じている。

医療機器業界にいと医薬品業界は依然として仰ぎ見る医療の世界の巨人であると感じるけれど、いろいろな学問や科学、技術を組み合わせて開発する医療機器に大きな可能性を感じるのは私だけであろうか。

在校生の皆様が進路の一つとして医療機器業界も視野に入れていただき、医療機器業界の発展の推進力になれることを心から期待している。

平成29年度東京理科大学薬学部地区交流会のご案内

皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本年度の地区交流会を下記にて開催いたします。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申しあげます。大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

平成29年 6 月

東京理科大学薬学部同窓会
会長 石井 甲一

■日時：平成29年10月8日（日）19：30～

■場所：PORTA神楽坂 6階 理窓会倶楽部

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-6-1

TEL 03-3269-1570



神楽坂を昇り、坂下から50メートルほど上がった左手にPORTA神楽坂があります。
1Fに梅花亭があります。エレベータで6階に上がってください。

■会費：5,000円

※ 当日 会場にて徴収させていただきます。

■申込：会場確保の都合がございますので、地区交流会に参加される方は、下記のとおり事前にお申し込みをお願い致します。電話での受付は致しません。

【申込期限】 9月25日（月）まで

【申込方法】

- ・同窓会ホームページの地区交流会申込フォームにアクセスし、お申込みください。
- ・下記内容を明記のうえ、東京理科大学薬学部同窓会事務局宛にご連絡ください。

氏名、卒業期、ご住所、電話番号

【ホームページ】 <http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

地区交流会のご案内を掲載しておりますのでご覧ください。

【お問合せ】 東京理科大学薬学部同窓会 事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641

東京理科大学薬学部内

FAX：04-7121-4531

E-mail：jimu@ridaiyakudo.gr.jp

平成28年度地区交流会報告

平成28年10月8日・9日に名古屋で第49回日本薬剤師会学術大会が開催されました。今回も例年通り、この学術大会に合わせて9日19:30からウェスティンナゴヤキャッスル「金の間」にて地区交流会が開催されました。会は、石井会長の挨拶で幕を開けましたが、

途中、藤井基之 参議院議員（薬剤師）や山本信夫 日本薬剤師会会長も会場にお見えになり、祝辞を頂戴しました。また、松本 純 現国務大臣国家公安委員長（薬剤師）からも祝電を頂戴するなど、会は盛会なものとなりました。「なんて、この場は、この国の薬事行政の中心に近いところなのだろうか」と身震いするような思いがしました。

今回は、首都圏での開催の割には若干、参加者が少なかったのが残念でしたが、次回は東京開催となります。地区交流会は、思い出の地「神楽坂」（直近およそ10年の卒業生の皆様には「思い出の地」という表現が当てはまらないので恐縮ですが）での開

催予定ですので、たくさんの同窓生の皆様に奮ってご参加いただきましたきますよう、よろしくお願い申し上げます。

（30期 内村 兼一）



第15期同期会報告

平成28年7月23日、2年に1回の理科大薬学部第15期そして第4回同期会が理窓会倶楽部6Fにて、にぎにぎしく開催されました。今回は、新会長 日向章太郎氏の下での開会でありました。第15期は、参加者28名の全員が還暦を越え、第二の人生をスタートさせている年代なのであります。そこで、その後の仕事の話や、はたまたドーンとタイムスリップして大学時代の話など大いに盛り上がりました。薬学部の卒業生はやはり薬局に再就職している方が圧倒的に多く、資格の大事さを痛感しまし

た。1次会は6時から9時までの3時間。あっという間に時間は過ぎ、遠方の方を除いてほぼ全員が神楽坂の「せつ」での2次会に突入したのであります。「本当に入れるの?」という心配をよそにぎゅうぎゅう状態で全員が入店し、あちらこちらのテーブルで話の輪が広がりました。中には、突然衝撃の告白(?)を始める方もいらっしゃって、とても盛り上がりました。2年後の第5回同期会を楽しみにしつつ、爽やかにお開きとなりました。

第15期 石井 義彦



第21期同期会報告

2016年7月23日に薬学部同窓会の通常総会が開催され、福島原発事故で話題の放射線によるDNA損傷と修復機構、及び大学をめぐる動きとして入口と出口について、大学で教鞭をとられている堀越氏、中島氏の講演、懇親会を終え、それに続いて午後8時から21期同期会が飯田橋の居酒屋「茶き茶き」で開催されました。合計21名の同期の仲間が、国内外から集まりました。数えてみると卒業はもはや30年以上前。じっくりお互いに顔を見合わせて「あーABCさん？」と挨拶しあう人、名前を聞かなければわからない人もおりましたが、当時の話になると声のトーンが上がり、懐かしいエピソードに盛り上がりました。先述のように海外や国内の大学で研究を続けている人、お役所や企業、薬局に勤めている人、弁理士になった人、起業した人、ご家庭で家族を支えている人等々、私自身は製薬会社に勤務していますが、普段なかなか接することのない場所で様々な活躍をされていることを知りました。当時の出来事で、当時は秘密にされていたことを打ち明けられ、驚きの大爆笑もありました（何でも私に思いをよせていた人がいたみたい・・・）。大学時代というとても多感な時期に、同じ時間を同じ場所で過ごした掛け替えのない仲間なのだと、参加した皆

が心から感じているように想えました。今回の再会をきっかけに次の約束をする人もいて、とても有意義な時間を過ごせました。

次回は、一人でも多くの仲間に再会できて卒業後の人生を語り合えることができれば、とても嬉しいです。今回の同期会の開催にあたり、ご援助をいただいた薬学部同窓会、幹事の皆様に心より感謝申し上げます。

21期 藤田（旧姓：伊藤）芳江



第9期同期会報告

多大な被害をもたらした台風の合間を縫う様な曇り空の日、まだ残暑が厳しい9月3日（土曜日）飯田橋「トリノ」で16時から開催しました。今年もオリンピックの年、4年振り、全員が年金受給者となって初めての同期会となりました。

「やっと仕事から解放されたよ」との参加者もありました。出席者は32名で男性10名、女性22名と学生時代と変わらず女性上位？となりました。ビールで乾杯の後、それぞれ料理、アルコールを手元に、並んでいる順にマイクを回して近況報告、仕事の話、孫の話、体調の話、趣味の話と大いに弾んで全員の報告が終わったのは18時頃。会場は18時30分までの予約でしたので、急いで記念写真を撮り、1次会はお開き。

その後2次会は神楽坂を少し上がった所の「八海山」に移動。19名が参加して、飲み直ししながら一品、二品をつまみ、又おしゃべり。続いて3次会を向かいの「ドトールコーヒー」で13名参加、コーヒー等で締めとなりました。実は21時半閉店で追い出されたのですが、各自、地下鉄、JRと次回の再会の約束をして別れました。

次回は「今までの4年毎では間が空き過ぎで、出席できるか自信がない」等の意見が出て、それでは「冬季オリンピックの2年後では」との提案があり、「2年後なら参加できそうだ」と直ぐに話がまとまりました。言うことで、次回の同期会は2年後に決まりました。是非多数の方のご参加をお待ちしています。（9期 同期会幹事）



第12期同期会報告

平成28年9月3日（土）東京理科大学理窓会倶楽部（PORTA神楽坂）」にて12期同期会を開催いたしました。3年ぶりの開催となりましたが、札幌や福岡からも駆けつけ、和気あいあいと楽しい時間を過ごしました。

「会いたい！」という声に毎年9月第1土曜日開催を決定いたしました。

同期の皆様準備よろしくお願ひいたします。

♪ レポート ♪

平成29年3月11日池北雅彦教授 最終講義&囲む会 に参加してきました。

神楽坂キャンパス211教室は、池北先生の最終講義を聞く、恩師・先輩・同僚・後輩達で座りきれない状態でした。大学入学から46年間の理科大での思い出・業績を感謝を込めて講義されました。とても感動的な最終講義でした。

教授として、東京理科大学常務理事として、教育現場に大学運営に永年に亘り

ご尽力され、多くの実績を残されました。

4月からは、山口東京理科大学理事長として更なる活躍に期待いたしましょう！「山口での同期会もいいな…」なんて考えています。

THANKS MUCH！

～人とのふれあい わたしの大学生活～

（12期 金澤 幸江）



古希を記念した第6期同期会報告

2016年10月2日（日）12時から理窓倶楽部を貸し切って、古希を迎えた6期生が37名参加し、同期会が開催されました。その2年前にも同期会を行いました。これからは参加者が減る一方になることを想定し、できるだけ2年間隔で開催しようということになりました。それまでは市ヶ谷のアルカディアで開催していましたが、折角神楽坂に理窓会館があるのだから、使わせてもらおうということになりました。また、最近では神楽坂が話題になっていることもあり、同期会の前に1時間使って神楽坂散歩を企画しました。まだ歩けるうちにということもありましたが。学生時代は神楽坂の上の方には、あまり

行ったこともない人が多く、**神楽坂通り**、**芸者新道**、**本多横丁**、**かくれんぼ横丁**、**兵庫横丁**などを案内役の幹事の説明を聞きながら歩きました。ほとんどの参加者が最近の神楽坂を知らないので大変好評でした。

3.11の被災者の気仙沼の女性たちが作っている帆布のバッグやさんから、おしゃれなポーチを取り寄せ、診察券入れに使ってくださいと古希記念に渡しました。

開会の挨拶後、卒業して47年もたっているのに、違和感なく、懐かしい顔に会い、近況報告やら、昔話に花を咲かせました。理窓倶楽部を会場にしたことは、十分なスペースもあり、立食よりは、座って歓談できること。

通常の会場だと2時間が限度ですが、12時から16時ごろまで通しで使用可能なことで、1次会と2次会を移動せずに行えるため、幹事としても企画しやすかった利点があります。ケータリングはTSUダイニングという理科大学の学食を引き受けているところですが、これまではほとんどが男性のお客さんを対象にしているの、薬学部の卒業生が同期会などで使う機会も増えるならば、メニューは女性向きのものにしてほしいなど、いろいろと注文を付けました。薬学部の卒業生の会でも使わせてもらえるので、おすすめです。

1969年に卒業して、47年を経過しほぼ全員が70歳になっています。まだ、薬局を営んでいる方もあり、地区の薬剤師会ではそれな

りの顔役の方もいます。薬学部を出たことがキャリアに役にたっており、現役の方も、リタイアされた方も、それなりに素敵な人生を楽しんでいるようです。また、何らかの形で社会とつながっている人が多いようです。皆さんこれからも、どうぞお元気で2年後にまた会いましょう。
(藤井幸子 記)



第14期同期会報告

昨年10月30日（日）第3回14期同期会が開催されました。

今回は新校舎の見学も兼ね、理大祭で賑わう葛飾キャンパスに11時集合。同窓生集合場所に指定された食堂に集まり、まずは楽しく懇談。みな還暦は過ぎても話せばあつという間に大学時代にタイムスリップし、写真撮影も賑やかな雰囲気で行われました。食堂内には他の学部やサークルの卒業生も集まっていますが、私たちの場所だけ女性の高らかな笑いが響いていたようで、受付をしていた大学の関係者から「女性の声がこんなにたくさん聞こえるなんて、理科大じゃないみたい」と笑顔で声をかけていただき、それを聞いて更にみんなで大笑いしました。

その後、金町駅から京成線で柴又へ向かい、川魚料理で有名な「川千家」へ。今回は43名が出席し、お酒を飲みながらお刺身、鰻などの美味しい和食コースをいただきながら、近況報告、写真撮影など、こちらでも楽しく盛り上がりしました。

会食後、一旦解散し、希望者32名で柴又帝釈天や寅さん記念館を見学。そして「また4年後に会いましょう」

と言葉をかけながら16時頃解散しました。

今回は幹事長岩崎修君の地元、葛飾区での開催ということで、岩崎君に全て企画していただきました。岩崎君ありがとうございました。

そして参加してくれた皆さん、楽しい時間をありがとう。また参加できなかった皆さん、次回は是非参加してくださいね。

では皆さん、オリンピックイヤーに、また会いましょう♪
14期同期会幹事





第16期同期会報告

我々 16期卒の同期会は4年に1度のオリンピックイヤーに開催しており、リオデジャネイロオリンピックが開催された2016年の今回は、去る11月12日（土）に開催いたしました。

特に今回は同期全員が今年度中に『還暦』を通過する、または通過しているという記念すべき年にあたりましたので、『還暦越え記念大同期会』と称し、会場もホテル椿山荘タワー棟にて盛大に開催しました。

当日は同期の牧野元学部長を初め、全国各地から55名の出席があり、幹事代表の遠藤さんの乾杯に始まり全員が一言ずつ挨拶をしたものの、とても一次会だけでは話が尽きず、一旦椿山荘の庭を散策したのち、ほぼ全員で飯田橋での二次会になだれ込みました。

薬剤師として、会社員として、自営として、それぞれの社会で年輪を重ねて来た仲間が学生時代にタイムスリップし、とても楽しい

一日となりました。その後もそれぞれの仲間で三次会へと夜半まで続いたようです。

次回の同期会は4年後の2020年の東京オリンピックの年となりますが、4年も待てないという意見が多く、次回の幹事団によりますと2年後の2018年に中間同期会を開催するようであります。（16期 2016年幹事一同）



第5期同期会報告

桜の季節から若葉が目染める季節へと移る平成29年4月23日「理大薬学部第5期生 同期会」が、神楽坂の理窓会倶楽部「PORTA 神楽坂」において開催（12時30分～16時）されました。当日は天候にも恵まれ、全国各地から総勢43名の仲間が懐かしい神楽坂に集まってくれました。5期生の入学は昭和39年、今年で卒業49年を迎えます。入学した昭和39年は、高速道路が出来、新幹線が開業し、東京オリンピックが開催されました。まさに我が国が戦後から勢い良く再スタートした年でもありました。この頃は世界的にはケネディ大統領の暗殺事件、アポロ11号が月面着陸し、連合赤軍事件が起こる等、よくも、悪くも激動の時代でした。光陰矢のごとしあと3年後には二度目の東京オリンピックが開催されます。我々が過ごした神楽坂は今も心の中に面影を止めています。

残念ながら幽明境を異にした学友は13名になりました。我々の平均年齢は72～73歳で間もなく後期高齢者の仲間入りをします。老人はなんで健康状態の話題ばかりになるのか…と若い頃は思いましたが、今では話題はやはりお互いの健康のことであり、すっかり普

通の老人になっています。しかしながら、多くの仲間がまだ現役でおり薬剤師の免許の力を実感しています。

今回も同期会開催に際し、東京理科大学薬学部同窓会から「お祝い金」を頂き、有効に活用させていただきました。有難うございます。会場でとったスナップ写真も集合写真もその場で印刷し、帰りには全員に持って帰っていただきました。今後も、幹事が欠けない限りは二年に一度、今回と同じ場所で同期会を開催する事が出席者満場一致で決まりました。二次会には三々五々お気に入りのお店にいき話は尽きないようでした。

出席者全員が若葉かおる神楽坂で学生時代に帰った一時でした。
第5期生同期会幹事



放射関係研究室同窓会報告

平成28年10月2日（日）に放射関係研究室の同窓会が東京のアルカディア市ヶ谷で開催されましたのでご報告いたします。本同窓会は、薬学部の放射関係研究室の同窓生が一堂に会することを目的に、平成24年より2年ごとに開催され、今回でちょうど3回となりました。参加者は、第1期生から第32期生までの27名となり、幅広い世代の同窓生が参加しました。

当日は、第1期生の黒崎浩己さんの乾杯の発声で始まり、参加者自己紹介、懐かしい思い出のスライド映写など、料理に手を付けるのを忘れるほど参加者の歓談の輪が会場のあちらこちらにできていました。そして、最後に参加者全員で記念撮影をしてお開きになりましたが、約2時間があっという間に過ぎてしまった感がありました。

放射関係研究室の同窓生は、第53期まで

を含めると総勢約400名弱となります。次回は2年後の平成30年になり、また、幹事も第22期中心から第32期中心と大幅に若返ります。次回の放射関係研究室同窓会では、今回以上の幅広い世代の参加を期待します。

（第22期 佐藤岳幸）



幹事会はどなたでも参加できます

薬学部同窓会では、年に4回（4月、7月、10月、1月頃）幹事会を開催しております。

日時、場所についてなど、詳しくは同窓会ホームページ（<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>）に掲載されます。

皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

特に、24期、28期、33期、36期、38期、41期以降の同窓の方、ぜひ幹事会にいらしてください。

心よりお待ちしております。

薬学部同窓会は同窓生の真心と会費で運営されています

薬学部同窓会の皆様、日頃より同窓会にご協力戴きありがとうございます。

また 本年も昨年に引き続き会費納入本当にありがとうございました。同窓会幹事一同心からお礼申し上げます。

そして 本年度から新たな同窓生となりました平成29年3月卒業生54期、修了の皆様、ならびにご父兄の皆様からも本同窓会運営に賛同を得ることができましたことを本当にうれしく思っております。東京理科大学薬学部同窓会は同窓生の真心と会費により運営されております。

今後とも、よろしくお願いいたします。

平成29年度会費納入のお願い

平成28年度に引き続き、平成29年度会費納入をお願いいたします。

各会員の会費納入状況は、ふなかわら送付時の宛名の

下部に記載してありますのでご確認ください。なお、会費納入の際には、同封の郵便局振り替え用紙をご利用ください。会費は年会費2,000円（何年分でも納入できます）、終身会員50,000円です。ご寄付も受け付けておりますのでよろしくお願い申し上げます。

（終身会員・∞）

終身にわたり会費を納入済みの正会員の方：終身会員の方は、納入年度にかかわらず、ふなかわらにお名前を記載させていただきます。

（平成××年度まで済み）

平成××年度まで会費納入済みの正会員の方：会費納入年度のふなかわらにてお名前を記載させていただきます。

（平成29年度・お願い）

平成29年度会費 未納の会員の方：よろしくお願い致します。

平成28年度 会費納入額詳細（平成29年3月31日現在）

	年会費納入		終身会費納入		寄 付 金		合計金額
	金 額	人 数	金 額	人 数	金 額	件 数	
平成28年度卒業・修了者	38,000	3	750,000	25	0	0	788,000
既卒者	354,000	61	1,400,000	29	83,000	6	1,837,000
その他					10,000	1	10,000
合 計	392,000	64	2,150,000	54	93,000	7	2,635,000

薬学部同窓会会員数（平成29年3月31日現在）

	会員登録数	終身会員	年会費会員
卒 業 生	9,618名	2,074名	951名
大学院修了生	215名	18名	8名
合 計	9,833名	2,092名	959名

WEB会員管理システムを利用して、パソコンから登録情報の変更をすることができます。
FAXや郵送をされる方は、下記の変更届をご利用ください。

氏名・住所・異動等変更届

東京理科大学薬学部同窓会宛

記入 年 月 日

下記の変更をお知らせします。

氏名	フリガナ			旧姓	フリガナ		
	漢字	姓	名		漢字	姓	名
卒業・修了	薬学部（薬学科・製薬学科） 期 年 卒 (卒・研究室)			大学院（修士・博士） 年 修了 (院・研究室)			
住所	旧住所	(〒 -) 都 道 府 県					
	現住所	(〒 -) 都 道 府 県					
	TEL.		FAX.				
Eメールアドレス		@					
勤務先	フリガナ	名称					
	所在地	(〒 -) 都 道 府 県					
	TEL.		FAX.				
Eメールアドレス		@					
その他 連絡事項							

個人情報は 東京理科大学薬学部同窓会の規定に従い管理致します。

【事務所・連絡先】 東京理科大学薬学部同窓会 事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内

FAX : 04-7121-4531

E-mail : jim@ridaiyakudo.gr.jp

切り取り線



かつての飯田橋駅西口駅舎がなくなりました



東京理科大学薬学部同窓会へのお問合せ

【事務所・連絡先】

東京理科大学薬学部 同窓会事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内16号館 1F

FAX : 04-7121-4531 E-mail : jimmu@ridaiyakudo.gr.jp

【ホームページ】

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

行事などに関するご案内など掲載しておりますので是非、アクセスしてみてください。

編集後記

本年も無事“ふなかわら”を皆様にお届けすることができました。感謝申し上げます。

GWに原稿をしたためてくださった皆様ありがとうございます。

今回は、名簿のWeb対応を始め多くの議論の結集号でした。という言い訳で、皆様のお手元に届くのが少し遅くなったことをお許しいただけますと幸いです。

薬学部同窓会は、同窓の皆さんの幹事会が軸となって運営され、ふなかわらはその成果の一部です。幹事のみならず多くの議論をして同窓会を盛り上げてまいります。皆様の同窓会行事への参加を心からお持ちしております。また、幹事会への参加もお心にとどめください。

本年も薬学部同窓会をよろしくお願いいたします。SA

平成29年度同窓会幹事一覧

小原 侃 (1)	松岡 隆 (8)	田端 敬一 (12)	田畑 新 (16)	小松 俊哉 (20)	前田 真 (27)	遠藤 咲智子 (39)
黒崎 浩己 (1)	奥村 成太 (8)	伊藤 充朗 (13)	直子 (16)	飯野 直子 (21)	藤枝 金枝 (40)	
山口 堅志郎 (1)	澤地 孝 (9)	小高 賢一 (13)	和枝 (16)	吉田 雅人 (21)	澤井 美里 (40)	
生田 安喜良 (2)	武尾 勝司 (9)	濱野 朋子 (13)	敏行 (16)	安藤 秀一 (22)	柴崎 光太郎 (40)	
鈴木 政雄 (3)	中島 敏夫 (10)	波田野佐和子 (13)	隆夫 茂 (17)	磯部 政彦 (22)	高橋 智至 (40)	
中村 洋司 (3)	原 しげ子 (10)	伊藤 昭子 (13)	邦之 邦之 (18)	小川 みどり (22)	今関 友佳 (43)	
池田 幸雄 (4)	石井 啓一 (10)	石井 文由 (14)	裕史 (18)	柏田 中川 (22)	杉野 由香里 (43)	
幡野 千丕子 (4)	安達 順一 (11)	岩崎 修 (14)	宏二 (18)	永井 健二 (22)	永井 弓子 (43)	
山川 洋志 (5)	石井 甲一 (11)	林 典子 (14)	紀子 (19)	幸恵 (22)	森脇 惠子 (43)	
山田 高照 (5)	石井 涉 (11)	畑中 典子 (14)	和裕 (22)	和裕 (22)	松本 洋典 (43)	
湯田 康勝 (5)	岡宮 智子 (11)	菅原 伸治 (15)	直樹 (23)	直樹 (23)	高尾 圭一 (45)	
植木 清一郎 (6)	富秋 呈一 (11)	章太郎 浩志 (15)	一成 (25)	一成 (25)	高尾 主一 (45)	
藤井 幸子 (6)	向井 飯島 康典 (12)	和藤 健治 (16)	寧 (26)	寧 (26)	宮田 あずさ (52)	
石井 賢二 (7)	飯島 幸江 (12)	関口 真紀子 (16)	靖之 (26)	靖之 (26)	宮田 悠 (52)	
寺山 博行 (7)	金澤 幸江 (12)	関口 真紀子 (16)	正克 (26)	正克 (26)	石坂 隆史 (大塚)	